

情報開示制度と監査

教授 加藤達彦

1. 研究内容

企業における金と物の流れを唯一客観的に示すことができるのが会計であるとされる。しかし実は会計上の数字は非常に人間臭く、それを作る経営者の主観に強く作用される。さらに経営者は、会計を基礎として、自分が経営する企業の成績表を自ら作り、資金を提供する投資家にその内容を報告する。もし学校であなたが、試験の自己採点をして自ら作った成績表を両親にそのまま見せたとしたら、その内容は本当に信用されるであろうか。企業が作成する財務諸表という成績表は、これとまったく同様の問題を抱えている。公認会計士が行う会計監査は、このままでは信頼性が薄い企業の成績表を、学校の先生と同様に、第三者の目でチェックして信用をつけるためにある。

本演習室では、会計そのものが持つ人間臭い側面と、経営者が自らの成績表を正直に作成できるようにするには何が必要かという問題について、科学的に深く考察していく。

2. ゼミの進め方

《2年次》

春学期は下記の教材に基づき、秋学期は指定された会計学の教科書を基に、学生による報告と討論を中心にして授業を進める。演習に参加する学生のすべてに対して、積極的な発言を求める。春学期に使用する教材はアメリカの有名な行動経済学者によるものであり、経営者が正直な会計報告ができるかについて、非常に興味深い考察を行っている。経営者や公認会計士から倫理的な行動が期待できるかについて科学的に考えるには格好の一冊である。なお講義の内容については、ゼミのシラバスに詳細に示されている。秋学期に使用する教科書については財務会計の基礎から応用まで事例を通じて学べるものを考えている。また最新の事例についても授業で逐次紹介する予定である。合宿は予定していない。

《3年次》

2年次に指定した会計学の教科書を継続して使用し、その教材に基づいて、学生による報告と討論を中心にして授業を進める。演習に参加する学生のすべてに対して、積極的な発言を求める。秋学期の最後には、各自が3つ以上の企業の財務諸表を6年分準備する。それについて最低8つの経営指標（当期純利益・自己資本比率・ROE・ROA・売上高営業利益率・フリーキャッシュフロー・キャッシュ化速度・EBITDA など）を計算しグラフ化する。さらに自分で調べた企業の経営状況について作成したグラフを基に報告を行ない皆で議論する。分析対象の企業は、自分の就職希望企業など、学生の希望に応じて決める。合宿は予定していない。

《4年次》

4年次では2年次と3年次で学習した内容をより深めるために、各自でテーマを選択し卒業論文を仕上げる。合宿は予定していない。

3. 教材

アリエリ『予想どおりに不合理 増補版』早川書房（2010年）
会計学の教科書は後で指定する。

4. 成績評価の方法

選考方法につきましては、Oh-o!Meijiにて、後日連絡します。

5. ゼミ入室試験（選考方法）

志望者との面接により決定する。